

茨木市立 三島 小学校 全国学力・学習状況調査分析結果

令和4年 10月作成

【今年度の結果と取組みについて】

〇●国語●〇

(領域ごと)

- | | |
|------------------|---------------|
| ①言葉の特徴や使い方に関する事項 | 概ね良好な結果であった |
| ② 我が国の言語文化に関する事項 | 課題が残る結果であった |
| ③ A話すこと・聞くこと | 概ね良好な結果であった |
| ④ B書くこと | やや課題が残る結果であった |
| ⑤ C読むこと | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|-------|-------------|
| ① 選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ② 短答式 | 概ね良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

最も正答率が高かったのは、設問①一の、話し言葉と書き言葉との違いを問う問題であった。

最も正答率が低かったのは、設問③二の、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけ、記述で答える問題であった。

無解答率は、今年度は全国平均を上回った。最も無解答率が高い設問は、設問③三ウの、漢字を文の中で正しく使うことができるかを問う問題であった。

分析

○「読むこと」の領域は、全国平均を上回っていることから、登場人物の気持ちや相互関係に着目して物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりすることができる傾向にある。

○「書くこと」の領域は、正答率が全国平均を下回ったことからわかるように、依然課題が見られる。しかし、テスト前半部分にある「書くこと」の領域の設問①四は、全国平均に比べ正答率、無解答率が上回る結果となった。このことから、「書くこと」に対する苦手意識は減少傾向にあると考えられる。今後も、国語科の教科の枠に限らず、長期的に「書く力」の積み上げを意識した取り組みを充実させていく。

○無解答率が全体として全国平均を上回る結果となった。無解答率の高い設問を見ると、特にテスト後半五問に集中しており、解答時間が不十分だったのではないかと推察される。ここから、全国学力・学習状況調査のような問題形式を解く経験の不足、また、時間を意識して問題に取り組む経験の不足が考えられる。普段の学習やテストから、時間を意識して取り組む意識を養っていきたい。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|----------|-------------|
| ①A数と計算 | 良好な結果であった |
| ②B図形 | 概ね良好な結果であった |
| ③C変化と関係 | 概ね良好な結果であった |
| ④Dデータの活用 | 概ね良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった |
| ②短答式 | 良好な結果であった |
| ③記述式 | 概ね良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

最も正答率が高かったのは、設問1(1)の、整数の乗法の計算をすることができるかを問う問題であった。

最も正答率が低かったのは、設問2(3)の、数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかを問う問題であった。

無解答率は、全国平均をやや上回った。

最も無解答率が高い設問は、4(3)の図形の構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方についての理解を問う問題であった。

分析

○全体としては、全国平均を上回っている領域のほうが多く、良好な結果であったと言える。

○単元別に見ると、設問2(3)のような割合の単元につまずきが見られる。数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や、伴って変わる二つの数量の関係について考察することに苦手意識が感じられる。割合の問題に取り組む際には、日常の具体的な場面に対応させながら割合についての理解を深めることを目指していきたい。

○課題が見られたのは、設問3(4)の問題である。切り上げ、切り捨て、四捨五入の方法は理解していて、概算することができる。しかし、場面や目的に応じて、どの概算方法が適切かを判断することに課題が見られた。知識を身につけるだけでなく、それらを使って思考し判断する力を養う必要がある。そのために、より日常生活に即した課題に取り組み、思考力や判断力を身につけていく。

○国語と同様、無解答率が全体として全国平均を上回る結果となった。無解答率の高い設問を見ると、特にテスト後半五問に集中しており、解答時間が不十分だったのではないかと推察される。普段の学習やテストから、時間を意識して取り組む意識を養っていきたい。

(領域ごと)

①エネルギー	概ね良好な結果であった
②粒子	概ね良好な結果であった
③生命	概ね良好な結果であった
④地球	概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式	概ね良好な結果であった
②短答式	概ね良好な結果であった
③記述式	概ね良好な結果であった

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他)

最も正答率が高かったのは、設問①(1)の、問題を解決するために必要な観察の視点を基に問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えを持つことができるかどうかをみる問題であった。

最も正答率が低かったのは、設問③(1)の日光は直進することを理解しているかどうかをみる問題であった。

無解答率は、全国平均をやや下回った。

最も無解答率が高い設問は、②(4)の自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できるかどうかをみる問題であった。

分析

○全体としては、全国平均を上回っている区分のほうが多く、概ね良好な結果であった。

○区分別に見ると、設問①の「生命に関する問題」や設問②の「粒子に関する問題」、設問④の「地球に関する問題」は全国平均と比べ概ね良好な結果であった。実験や観察の体験を通して習得したことで知識がより深まった結果といえる。

一方、設問③の「エネルギーに関する問題」では正答率、無解答率ともに課題が見られた。本設問は第3学年での学習内容をもとにしており、習得した内容を次の学習や普段の生活などに生かしていくことと深く結びつけていくことが求められている。

こういった知識をより深く理解できるようにするために、主体的な問題解決を通して知識を習得できるようにしたり、習得した知識を実際の自然の事物・現象と関連付けて説明できるように学習活動を展開していきたい。

○国語、算数に比べて、理科では無解答率は全国平均をやや下回り、大きく差はなかった。しかしながら無解答率の高い問題は記述式の問題に多く、記述式への苦手意識は、国語、算数と似た傾向を示す結果であった。自分の考えを理論的に記述できるような学習活動に取り組んでいきたい。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

平均正答率は依然として全国平均を上回っており、これまでの取り組みが児童の力に繋がっていると思われる。

無解答率は、全体として算数、国語共に全国平均より高い傾向が見られる。問題文が長く複雑な問題、情報量の多い問題で無解答率が高い。

また、後半数問の無解答率が、全国平均に比べてもかなり高い。普段の学習から、時間配分などを意識した取り組みが必要である。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

全国平均と比べて、学力低位層が少なく、高位層が多い傾向が続いていた。今年度は、例年に比べ、高位層が少し減少し、中間層が増えている。

国語では、低位層の減少が見られ、中間層が増加傾向にある。

算数では、高位層の若干の低下も見られたが、依然として全国平均を上回っている。また、前年度に比べ、低位層の増加が見られた。

○●取り組み●○

学力向上に関する取り組み

三島小学校では、『わかるって楽しい 学ばってすばらしい【伝え合う 聴きあう 分かりあう授業づくり】』をテーマに、どの子にも確かな学力をつけるため、一人ひとりの子どもの立場に立って状況を把握し、適切な指導や支援を以下のような取り組みを通して継続的に行っている。

- ぐんぐんタイム …毎週水曜日の朝の学習で、国語のプリントに取り組み、ことばについての学習を深めている。また、週替わりで、リーディングスキル、ビジョントレーニング、プログラミング学習、テーマ作文のプリントに取り組んでいる。
- 放課後算数教室 …学期に1回、全職員が関わり、放課後の補足的な個別支援学習を行うことにより、基礎基本の定着をはかっている。
- 学びんぐ教室 …5、6年生の学年で、学年ごとに曜日を定め、学習支援アドバイザーなども関わり、放課後に集まって宿題や算数のプリント学習を行っている。年間を通して、自主学習や家庭学習の習慣化、日頃の学習の復習と定着をはかっている。
- 家庭学習・生活がんばり週間 …年間2回、家庭と学校が連携し、子どもたちの「家庭学習」と「基本的な生活習慣」の定着をめざして二週間行っている。
- 校内算数診断テスト…年度末に校内独自で行っている。一年間まとめのテストの結果や児童の実態を元に、次年度の重点領域・単元を決め、T.T（チームティーチング）や少人数など、授業方法の形態や内容を検討し、授業改善につなげている。